

6 2018年

wish times

寮生に「WISHでの生活」を
インタビューしてみた。

『People of WISH』

pg 2~4

SI プログラム Pick UP!

pg 5

Special Contents

「常連客な私。-寮生の生態調査-」

pg 6~8

WISH TIMES編集陣が寮生の「生活」に密着調査。

これが、「WISHer」（=WISHの住民）です!!



早稲田大学国際学生寮WISHには日本人学生、外国人学生のほかにThird Culture Kids(TCK)の学生が多く住んでいる。寮生のダイバーシティを反映するかのよう、RA組織にもTCK学生が多数所属し、寮の運営を手伝っている。今回インタビューしたJr. RAのK君もその一人だ。

—では軽く自己紹介していただけますか？

K:2016年の9月に入寮し、今年の春学期から3階のJr. RAをしています。大阪生まれ沖縄育ちで、2歳の頃から高校卒業までインターナショナルスクールまで行っていました。国際教養学部2年で、今年の秋からブラウン大学にトランスファーする予定です。

—入寮した時から3階でしたか？

K:そうですね。

—『今年の秋からブラウン大学にトランスファーする』と仰っていましたが、これについて詳しく教えてくださいませんか？

K:高校時代からアメリカに行きたいという思いはあって、大学の留学では満足できるまで勉強できないと思ったのがありますね。あと、結構プログラミングとかに興味があって、最初は早稲田の中で転部しようと思ったけどそれが出来なくて、なら大学ごと変えようと思ったことかな…あと、日本とアメリカ両方で大学を体験してみたかったというのもある。

—なるほど。てっきり何か嫌なことあって大学を変えたのかと思っていました。

K:あったとしてもここでは言えないですね。(笑)

—確かに。では話題を現在住んでいるWISHに戻しますね。何故この寮に住もうと思いましたか？

K:キレイで新しいし国際的だし…日本人、外国人の枠を超えた交流ができると思い入寮しました。

—入寮してどうでしたか？

K:日本の大学風土に沿ったグローバルズムを感じることでできる寮でした。

—興味深い反応ですね…ではどうしてRAになると思ったのですか？

K:高校時代から生徒会長とかボランティアをしていて、人のためにリーダーシップをとるのに慣れていたので、大学生活に刺激が欲しかったからです。それに加えて、寮生だったころの自分は引きこもりがちで、同じ階も全体的にそんな感じでした。寮生同士の交流が少なく、挨拶もほとんどなくて…フロアの雰囲気と自分を変えてみんなと仲良くなりたいと思ったからです。

—結果はどうでした？寮生時代とRAになってからは寮の見方が変わりましたか？

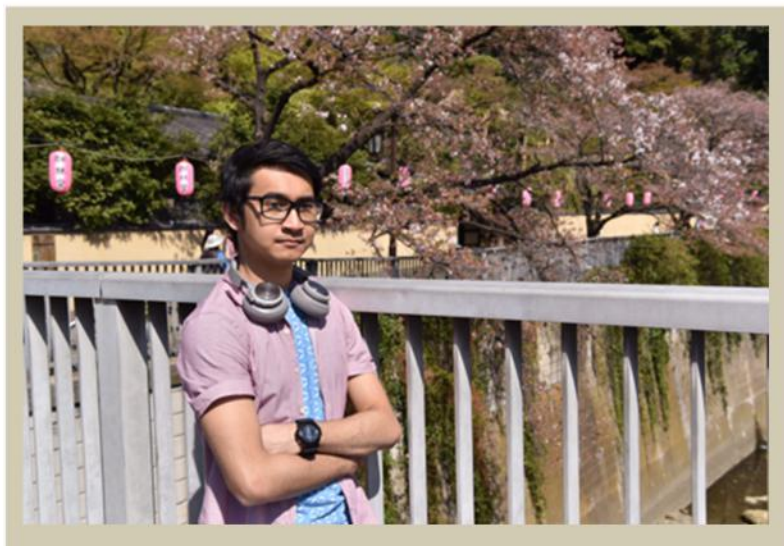
K:RAになったと同時にフロアでも新寮生がたくさん入って、新しい空気が生まれました。あと同じフロアのRA達と協力してフロアイベントとかを企画して交流を促進させたり…結局寮生時代も、フロアの雰囲気にちょっと影響されて僕も暗くなっていたのかなって思います。でもRAになって後押しをすれば、すごい個性的な寮生ばかりだなと感じるようになりましたね。これからも枠にとらわれずに色々な寮生を見ていきたいです。

—ありがとうございます。これからのご活躍楽しみにしております。

K:(ギターを弾き出す)

TRISTAN APUAD

基幹理工学部1年生



今回は、ミャンマー出身で基幹理工学部のTristan A Apuad(トリストラン)にインタビューを行いました。WISHの国籍の多様性を感じることができると思います。インタビューは英語でしたが、日本語でお送りします。

出身、育ちなどのバックグラウンドを教えてください

父がフィリピン、母がミャンマーで、私自身はミャンマーで育ちました。ヤンゴンのインターナショナルスクールに通い、大学では人生の転機として、日本に来ることを選びました。

日本での生活はどうでしょう？

新たな友人と出会い一緒に住むことで、互いを知り理解することができます。また、新しい国に来ることは時に現地の文化やルールに合うよう行動しなければなりません。このように、生活を通して互いの文化の違いを感じることが学びになっています。

中野にはどんな印象がありますか？

中野は、ブロードウェイもあり買い物も便利で、また非常に交通アクセスが良いです。私は最初、新宿に行く際遠回りし乗り継ぎをして電車に乗っており、後から中央線で中野から新宿まで直通であるということを知りました(笑)中野はアクセスが良かったため、東京の電車を覚えるのにも役立っています。

特に、WISHでの暮らしはどうですか？

WISHは、留学生にとって生活を始める場所として最適だと思います。日本人寮生も親切で同じフロアでもよく話す日本人寮生の友達もいます。ただ、やはり日本人寮生の中には英語に苦手意識がありあまり話したことがない人もいて、私自身もまだ日本語があまり上手ではないので、言語の壁を感じることもあります。しかし、同じユニットの日本人寮生とは言語を教えあう仲で、私は日本語で彼に話しかけ、彼は英語で私に話しかけるといのように、相互に言語を学びあうことができます！また、WISHには日本だけでなく中国、韓国、台湾、アメリカなど様々な国籍の寮生が住んでおり、日本以外にも様々な文化に触れる機会がありとてもよい環境です。

これからWISHに入ってくる学生に一言お願いします！

WSHでは、新しい友人を増やすことができます！私を含め留学生の多くは様々な寮生と話したいと思っているため、様々なバックグラウンドを持つ友人ができると思います。また、SIプログラムは新しい知識を身に着けるための非常に良いプログラムだと思います！

ありがとうございました！

日本人の二年の寮生にインタビュー

玉井 竜大 unit 526

(二年生、スポーツ科学部)



FU :今日はありがとう！バイトない？

玉井:休みを取った。大丈夫。

FU :じゃ、はじめようか。まず、初めにWISHに来た時。
その場面、おぼえる？

玉井:ああ、このWISHのビルを見たとき、
きれいで大きい感じがあった。
出迎えてくれたRAさんは親切で、
ほんとに助かった。

FU :そうだね。RAさんはみんないい人ね。
もう住んで1年になると思うけど、概してWISHの印象はどうだった？

玉井:いい所と思う。おもしろい活動はいっぱいある。
でも僕の学部のキャンパスは所沢で遠いから、あんまり活動の参加時間がないんだ。

FU :そっか。SI Programという活動は自分の役に立つと思う？

玉井:もしよく参加できたとすれば、役に立つと思うな！

FU :なるほど。次の問題はWISHについて、一番好きなものは何？便利な交通とか…

玉井:やっぱりこの町かな。おいしいレストランもたくさんあるし、
店の品物の値段も安いし、生活も便利だし、中野はほんとにいい町と思う。
一年生のとき、よく「まんだらけ」という中古品店に行ったんだけど、
すごく楽しかった記憶があるね。

FU :僕も！最初来たばかりとき、毎週そこで漫画を読んだよ。まるで小さい秋葉原みたいね。
でも、WISHのよくないところもあるんじゃない？

玉井:だいたい問題ないけど、リビングルームの外に向かっている壁は普通の壁じゃなくて、
ガラス張りだよ。プライバシーがおかされている感じがあるよね…

FU :たしかに。僕もびっくりしたけど、もし安全や寮生の交流促進のために、
ガラスを選んだとすれば、理解はできる気がするな。
三年生になったら卒寮しないとイケないけど、どこへ引っ越したい？

玉井:学部の近くに住む(笑)。今通学時間がかかりすぎるんだよね…

FU :わかった。最後は、未来の寮生に一言を送ってください。

玉井:時間があれば、ぜひ活動に参加して欲しいと思います。
僕はキャンパスが遠くて物理的に活動に参加できない事が多かったけどね。

FU :ありがとうね！



5月のSIプログラム Pick UP!!

5/11(Fri)RAs & Residents Room

[担当RA、学生]先進理工学部 寺村、吉原

テーマ: 学生生活の有意義な過ごし方について-大学1年次にすべき「挑戦」を策定します。(以下寺村サイド)

VS

[担当RA]政治経済学部 北川

テーマ: 稲門会交流会「中野稲門会WISHグローバルパーティ」(OBOG交流会&食事会)(以下北川サイド)

SI内容対決1

問題意識

寺村サイド

海外の大学生と日本の大学生の課外活動に対する意識の違い

海外の大学の学生はインターンや学生団体への活動に積極的に取り組んでおり、卒業後のキャリアで活かせるような経験を学生中にしている人が多い。それに対し、日本の大学生は課外活動よりも一般的にバイト・サークルに打ち込む人が多く、課外活動に対してのアンテナが低いように感じられる。サークル・バイト・インターン等、様々な選択肢が大学生にはあるが、そのような選択肢を知らずになし崩し的に大学生活を送ってしまっている人がいることも考えられる。

北川サイド

近視的なものの見方をしてしまいがちな大学生

大学生活を始める上で「1年生の時にあれをすればいい」「3年初期から就活のインターン」など、方法論を教えてくれる機会は多いと感じる。現にSIプログラムのSelf Motivationはその典型例であろう。しかし、同時に大学生活は「大人入門」として大人への第一歩を踏む時期でもある。稲門会にいらっしゃる、キャリアを築きあげた方々の生きざまを学ぶことこそ、本質的な人生の歩み方を考える上でいいきっかけになると考える。

SI内容対決2

企画内容: 方針と狙い

寺村サイド

学生事業に力を入れているサイバーエージェントグループの株式会社ハシゴの鈴木啓太さんによる、学生時代の有意義な過ごし方、学生時代にやるべきことの勧めなどの講演。

北川サイド

4人の中野稲門会に所属するOB・OGプレゼンターの下に寮生が4テーブルに分かれてお話しを聞いたのち、ご飯を食べながら人生曲線を作り共有する。

評論: 北川

SIプログラムは、元はレジデンスセンターが提供する学習プログラムであった。それが今では毎週金曜日はRAと有志の寮生が主体になって企画し、他の寮生に還元するという新たな形でのプログラムが定着するに至った。今回のケースはこのRR教室がブッキングするという珍事であったが、お互いに質の高いプログラムであり、このようにSIプログラムが寮生の手によって運営されていくようになる先にWISHの独自性と希少性が生まれてくると感じざるを得ない。

SPECIAL CONTENTS

西條はやたくん(教育学部3年)

教育オタクでうまいものとエモい者には目がない。とても仲のいい弟がいる。部屋が汚い。普段は中野や馬場、早稲田周辺に生息しており、自らが所属する団体Hlabで外食をすることもある。外食は毎日のように行っておりでないところはならない。行きつけの店はfair trade shop Lampada。

飲食店をあげないところにプライドを感じる。

今回紹介するのはそんな西條はやたさんのオススメのお店、中野にあるLampadaというお店です。



はやたさんいわくエモい感じのランプ(照明器具)がたくさん揃ってる素敵なお店です。

こちらがはやたさんが買ったランプだそうです!!顔からは想像できないエモいお部屋となっております。

そしてlampadaのすごいところは自分の店の思想をしっかりと持っているところらしいです!フェアトレードショップとして安価な大量生産による労働者の問題に立ち向かっています。はやたさんはLampadaの生き様に最高のエモさを感じているそうです。



とってもエモいですね。WISHの部屋を友達と差別化するため、みんなもlampadaでランプを買いましょう!
!バカ高いのでバイトもしっかり行きましょう。

さすがWISH生通ってるお店も意識高いんですね。
みんなもWISHで自分を磨いてみては???

門田 凌典くん(文学部2年)



「外食は一週間に2回くらい！
美味しいものを食べると悶えるとか笑
よく食べるのはパスタとラーメンかな！」
今回は凌典くん行きつけのお店をいくつか紹介してもらいます。

銭湯「小杉湯」(高円寺)



▶漫画読み放題で、休憩場所がすごく居心地いい！お風呂には身体にいい水をつかっているらしい！

トリコカレー(中野)



▶WISHの近くの高架線下にあるカレー屋さん、濃いめで美味しい

油そば 東京煮干屋本舗(中野)



▶めっちゃ美味しい油そば、一回ならLINEアカウント追加で無料で食べれる！

ハヤシ屋中野荘(中野)



▶ブロードウェイ近く、ちょっと飲み屋街にはいったところにある洋食屋さん、ここはすごくおすすめ！

黒ようすけ(中野)



▶つけ麺屋さんめっちゃ美味しい！これもブロードウェイ近くの飲み屋街にある